高校生向けデザインコンテストを巡る意識調査分析 —「博多つくりベデザインコンクール」を題材として—

Analysis of Awareness Survey Regarding Design Contests for High School Students
: A Case Study of the Hakata Tsukuribe Design Competition

大淵和憲

博多織技能開発養成学校（博多織デベロップメントカレッジ）

Obuchi Kazunori

Hakataori Development College

Key words : traditional craft, design contest, fostering successors, Hakata-Ori

要旨

本研究では学生を対象とした、伝統工芸品の染織品や和装のデザインコンテストのうち、福岡県内の高校生を対象に開催されている「博多つくりベデザインコンクール」を研究対象とした。そして、高校生応募者のコンテストに対する意識や、「伝統工芸」ないし「和装」に対する意識等についての調査を実施し分析を行った。

調査結果データに基づいて統計解析（カイニ乗検定等）を行った結果、高校生にきものを着てもらう機会を増やすことによって、デザインコンテスト応募を機にさらに博多織や帯・きものへの関心を高めてもらうことに繋がる可能性があることや、高校生がデザインコンテスト応募を機に、博多織や帯・きものに関する学びや職業を、将来的な進路選択の一つとして考えることに繋がる可能性があることなどが明らかとなった。

Summary

This study focused on the "Hakata Tsukuribe Design Competition," a design contest for traditional crafts such as textiles and Japanese clothing, held for high school students in Fukuoka Prefecture. It conducted research and analysis on high school applicants' awareness of the contest and their perceptions of "traditional crafts" and

"Japanese clothing." The statistical analysis based on the survey results revealed that increasing opportunities for high school students to wear kimono could potentially enhance their interest in Hakata textiles, obi sash and kimono through participation in the design contest. It also indicated that participation in the design contest might lead high school students to consider learning about and pursuing careers related to Hakata textiles, obi sash and kimono as one of their future career options.

1. はじめに

1.1. 研究の背景と目的

学生を対象とした、伝統工芸品である染織品や和装のデザインコンテストが全国で開催されている。これらは、主に「全国規模で募集しているコンテスト」、「産地の地元学生を対象を絞ったコンテスト」及び「専門学校主催のコンテスト」等に分類される¹⁾。

本研究ではこれらのデザインコンテストのうち、福岡県内の高校生を対象に開催されている「博多つくりベデザインコンクール」を研究対象とした。

「博多つくりベデザインコンクール」は2000年に始まり、これまで25回開催されている。第1回から第9回までは博多織工業組合の組合員有志等による「博多つくりべの会」が主催し、第11回以降は、博

表 1. 「博多つくりベデザインコンクール」の開催状況一覧

回	年度	コンクール名	主催	応募作品 総数	応募高校 総数	入賞者数	入選者数
1	2000			189	不明	6	-
2	2001			450	11	5	-
3	2002			377	不明	6	-
4	2003			306	7	10	22
5	2004	博多つくりベの会 デザインコンクール	博多つくりベの会	290	7	10	-
6	2005			271	6	10	-
7	2006			285	6	10	-
8	2007			451	7	11	-
9	2008			252	7	10	26
10	2009		博多つくりベの会 博多織デベロップメントカレッジ	239	5	10	26
11	2010			243	6	10	25
12	2011			260	6	12	28
13	2012			300	6	11	26
14	2013			350	8	13	29
15	2014			362	7	13	26
16	2015			350	7	10	20
17	2016	博多つくりベ デザインコンクール	博多織デベロップメントカレッジ	525	8	12	20
18	2017			749	9	12	24
19	2018			749	11	15	22
20	2019			553	10	15	21
21	2020			435	12	12	20
22	2021			606	10	12	20
23	2022			378	7	13	20
24	2023			660	12	12	23
25	2024			668	12	12	22

出所:筆者作成

多織の後継者育成機関である「NPO 法人博多織技能開発養成学校（以下「博多織デベロップメントカレッジ」という。）が主催している（表 1）。

これまで「博多つくりベデザインコンクール」で、高校生応募者のコンテストに対する意識や、彼らの「伝統工芸」ないし「和装」に対する意識や実態等についての調査やそれに基づく分析は行われていない。

本研究では「博多つくりベデザインコンクール」を題材として、このデザインコンテストの開催状況を把握し、高校生の伝統工芸に対する関心醸成や、後継者育成につなげる機能的役割について考察することを目的とする。

1. 2. 研究方法

本研究の構成は以下の通りである。第 2 章では、「博多つくりベデザインコンクール」に関する質問紙調査の実施内容と統計解析の方法について述べる。第 3 章では、調査結果のクロス集計を用い、高校生応募者の和装や博多織に対する意識・実態についての現状等を確認する。第 4 章では、統計解析（カイ二乗検定と残差分析）から抽出された関連性について分析し、考察を行う。

2. 質問紙調査

2. 1. 対象者

質問紙調査の対象者は、「第 25 回博多つくりベデザインコンクール」（2024 年度）に応募した高校生 668 名とした。

2. 2. 調査方法及び調査内容

質問紙調査では、「第 25 回博多つくりベデザインコンクール」の出品申込書に自記式質問解答欄を設定し、応募作品裏面貼付の申込書を回収して実施した（図 1）。

設問は、きものの着用経験（問 1）や「博多織」という言葉の認知度（問 2）のほか、帯・きもの関心度（問 3）、博多織や帯・きものについて調べた経験の有無（問 4、5）、応募を経て博多織や帯・きものに対する関心が高まったか否か（問 6、7）、さらに将来帯・きものを学べる学校に進みたいか否か（問 8）、及び将来帯・きものに携わる職業に就きたいか否か（問 9）について問う計 9 問であった。2024 年 9 月 2 日～同月 27 日の間に、合計 668 通の出品申込書が回収された。

2. 3. 分析の視点

本研究で実施した調査の結果を分析するにあつ

第25回 博多つくりべ デザインコンクール 出品申込書

アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

下記の申込書に記入の上、ハサミ等で切り離して作品裏の右上へ貼付してください。

出品申込書	学校名・学年	年
	フリガナ	
	氏名	
	フリガナ	
	作品名	
	作品意図	

問1	きものを着た経験はありますか？	1.ある	2.ない
問2	これまで「博多織」という言葉を聞いたことがありますか？	1.あった	2.なかった
※以下、数字に○をつけてご回答ください。			
		はい	どちらとも いいない
問3	以前から、帯やきものに興味があった。	1	2 3
問4	今回、「博多織」について調べた。	1	2 3
問5	今回、帯やきものについて調べた。	1	2 3
問6	応募して「博多織」への関心が高まった。	1	2 3
問7	応募して帯やきものへの関心が高まった。	1	2 3
問8	将来、帯やきものを学べる学校に進みたい。	1	2 3
問9	将来、帯やきものに携わる職業に就きたい。	1	2 3

注) この申込書の問1～問9は研究上のため加えたものである。

図1. 出品申込書に設定した自記式質問解答欄

では、主に、応募者の和装や伝統工芸品「博多織」に対する関心や調査姿勢について現状把握を行うとともに、各々の要因間で関連性が見られるかどうかを、クロス集計を用いて把握することを方針に掲げて取り組んだ。

2.4. 統計解析の方針

クロス集計を用いて設問同士の関連性を確認し、2変数間で統計的に有意な関連性があるかを分析するため、カイ二乗検定を用いた。統計的に有意であった場合には、どの要因の効果があったかを明らかにするために残差分析を行った。

残差分析の結果、標準正規分布に従うと調整済残差の絶対値が1.96以上であれば、5%水準で有意であるといえることができる。本研究では、調整済残差が1.96以上の要因に注目することにした。

なお、統計解析ソフトはIBM SPSS ver.30 for Windowsを使用した。

3. 調査の結果

3.1. きものの着用経験と関連性を持つ項目の探索

「きものを着た経験がありますか」という質問では「ある」と「ない」の2選択肢から回答を求めた。この回答と、他の質問項目での回答とで区分したクロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った結果、

有意差や有意傾向が見られたものを表2に示す。

このうち第一に、「『博多織』という言葉を見たことがあるか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、5%水準で有意差が認められた($\chi^2(3) = 4.313, p < .05$)。このことから、きものを着たことが「ある」という回答が、博多織という言葉を見たことが「ある」という高校生応募者に多いことが示された。

第二に、「以前から帯やきものに興味があったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた($\chi^2(4) = 39.348, p < .01$)。このことから、きものを着たことが「ある」という回答が、「以前からきものに興味があった」という高校生応募者に多いことが示された。

第三に、「応募して『博多織』への関心が高まったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた($\chi^2(4) = 14.036, p < .01$)。このことから、きものを着たことが「ある」という回答が、「応募して『博多織』への関心が高まった」という高校生応募者に多いことが示された。

第四に、「応募して帯やきものへの関心が高まったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、10%水準で有意傾向が認められた($\chi^2(4)$)

表2. きものの着用経験と他の質問項目とのクロス集計表

項目	カテゴリー	きものの着用経験								χ^2 値	p値
		全体		ある				ない			
		観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数	調整済残差			
「博多織」という言葉を聞いたことがあるか (n=639)	あった	517 (66.2)	352 (83.2)	342.2	2.08	165 (76.4)	174.8	-2.08	4.313	.038*	
	なかった	122 (33.8)	71 (16.8)	80.8	-2.08	51 (23.6)	41.2	2.08			
以前から帯やきものに興味があったか (n=642)	はい	258 (40.2)	204 (48.1)	170.4	5.71	54 (24.8)	87.6	-5.71	39.348	.000**	
	どちらともいえない	256 (39.9)	158 (37.3)	169.1	-1.88	98 (45.0)	86.9	1.88			
	いいえ	128 (19.9)	62 (14.6)	84.5	-4.70	66 (30.3)	43.5	4.70			
応募して「博多織」への関心が高まったか (n=641)	はい	404 (63.0)	288 (68.1)	266.6	3.70	116 (24.8)	137.4	-3.70	14.036	.001**	
	どちらともいえない	199 (31.0)	115 (27.2)	131.3	-2.94	84 (45.0)	67.7	2.94			
	いいえ	38 (5.9)	20 (4.7)	25.1	-1.79	18 (30.3)	12.9	1.79			
応募して帯やきものへの関心が高まったか (n=642)	はい	382 (59.5)	265 (62.5)	252.3	2.16	117 (53.7)	129.7	-2.16	5.010	.082†	
	どちらともいえない	213 (33.2)	132 (31.1)	140.7	-1.54	81 (37.2)	72.3	1.54			
	いいえ	47 (7.3)	27 (6.4)	31.0	-1.29	20 (9.2)	16.0	1.29			

注)カイ二乗検定で統計的に有意であり、どの要因の効果があつたかを分析する残差分析から、調整済残差が1.96以上の値(有意水準5%)は灰色地に下線を付した。

**: $p < .01$, *: $p < .05$, †: $p < .1$ (以下同じ)

= 5.010, $p < .1$)。このことから、きものを着たことが「ある」という回答が、「応募して帯やきものへの関心が高まった」という高校生応募者に多い傾向が認められた。

3.2. 「博多織」という言葉の認知度と関連性を持つ項目の探索

「これまで『博多織』という言葉を知ったことがあるか」という質問では「あった」と「なかった」の2選択肢から回答を求めた。この回答と、他の質問項目での回答とで区分したクロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った結果、有意差が見られたものを表3に示す。

このうち第一に、「以前から帯やきものに興味があったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた($\chi^2(4) = 18.249, p < .01$)。このことから、これまで博多織という言葉を知ったことが「あった」という回答が、「以前からきものに興味があった」という高校生応募者に多いことが示された。

第二に、「今回『博多織』について調べたか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた($\chi^2(4) = 11.799, p < .01$)。このことから、これまで博多織という言

葉を知ったことが「あった」という回答が、「今回『博多織』について調べた」という高校生応募者に多いことが示された。

第三に、「今回帯やきものについて調べたか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、5%水準で有意差が認められた($\chi^2(4) = 7.156, p < .05$)。このことから、これまで博多織という言葉を知ったことが「あった」という回答が、「今回帯やきものについて調べた」という高校生応募者に多いことが示された。

第四に、「応募して『博多織』への関心が高まったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた($\chi^2(4) = 45.934, p < .01$)。このことから、これまで博多織という言葉を知ったことが「あった」という回答が、「応募して『博多織』への関心が高まった」という高校生応募者に多いことが示された。

第五に、「応募して帯やきものへの関心が高まったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた($\chi^2(4) = 21.297, p < .01$)。このことから、これまで博多織という言葉を知ったことが「あった」という回答が、「応募して帯やきものへの関心が高まった」という

表3. 「博多織」という言葉の認知度と他の質問項目とのクロス集計表

項目	カテゴリー	「博多織」という言葉を聞いたことがあるか									χ ² 値	p値
		全体			あった			なかった				
		観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数	調整済残差				
以前から帯やきものに興味があったか (n=643)	はい	258 (40.1)	228 (44.0)	207.8	4.10	30 (24.0)	50.2	-4.10	18.249	.000**		
	どちらともいえない	257 (40.0)	198 (38.2)	207.0	-1.84	59 (47.2)	50.0	1.84				
	いいえ	128 (19.9)	92 (17.8)	103.1	-2.77	36 (28.8)	24.9	2.77				
今回「博多織」について調べたか (n=643)	はい	440 (68.4)	369 (71.2)	354.5	3.12	71 (56.8)	85.5	-3.12	11.799	.003**		
	どちらともいえない	98 (15.2)	76 (14.7)	78.9	-0.82	22 (17.6)	19.1	0.82				
	いいえ	105 (16.3)	73 (14.1)	84.6	-3.12	32 (25.6)	20.4	3.12				
今回帯やきものについて調べたか (n=643)	はい	273 (42.5)	233 (45.0)	219.9	2.64	40 (32.0)	53.1	-2.64	7.156	.028*		
	どちらともいえない	173 (26.9)	135 (26.1)	139.4	-0.98	38 (30.4)	33.6	0.98				
	いいえ	197 (30.6)	150 (29.0)	158.7	-1.88	47 (37.6)	38.3	1.88				
応募して「博多織」への関心が高まったか (n=642)	はい	402 (62.6)	351 (67.9)	323.7	5.62	51 (24.8)	78.3	-5.62	45.934	.000**		
	どちらともいえない	200 (31.2)	147 (28.4)	161.1	-3.03	53 (45.0)	38.9	3.03				
	いいえ	40 (6.2)	19 (3.7)	32.2	-5.45	21 (30.3)	7.8	5.45				
応募して帯やきものへの関心が高まったか (n=643)	はい	380 (59.1)	324 (62.5)	306.1	3.62	56 (44.8)	73.9	-3.62	21.297	.000**		
	どちらともいえない	214 (33.3)	165 (31.9)	172.4	-1.56	49 (39.2)	41.6	1.56				
	いいえ	49 (7.6)	29 (5.6)	39.5	-3.93	20 (16.0)	9.5	3.93				
将来帯やきものに携わる職業に就きたいか (n=643)	はい	35 (5.4)	32 (6.2)	28.2	1.67	3 (44.8)	6.8	-1.67	6.504	.039*		
	どちらともいえない	235 (36.5)	197 (38.0)	189.3	1.59	38 (39.2)	45.7	-1.59				
	いいえ	373 (58.0)	289 (55.8)	300.5	-2.32	84 (16.0)	72.5	2.32				

表4. 帯やきものへの関心度と他の質問項目とのクロス集計表

項目	カテゴリー	以前から帯やきものに興味があったか									χ ² 値	p値			
		全体			はい			どちらともいえない					いいえ		
		観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数			調整済残差		
今回「博多織」について調べたか (n=646)	はい	443 (68.6)	189 (73.3)	176.9	2.09	179 (69.1)	177.6	0.24	75 (58.1)	88.5	-2.85	19.358	.001**		
	どちらともいえない	98 (15.2)	42 (16.3)	39.1	0.64	38 (14.7)	39.3	-0.29	18 (14.0)	19.6	-0.43				
	いいえ	105 (16.3)	27 (10.5)	41.9	-3.25	42 (16.2)	42.1	-0.02	36 (27.9)	21.0	4.01				
今回帯やきものについて調べたか (n=646)	はい	274 (42.4)	142 (55.0)	109.4	5.29	85 (32.8)	109.9	-4.04	47 (36.4)	54.7	-1.54	47.614	.000**		
	どちらともいえない	174 (26.9)	58 (22.5)	69.5	-2.08	94 (36.3)	69.8	4.39	22 (17.1)	34.7	-2.83				
	いいえ	198 (30.7)	58 (22.5)	79.1	-3.67	80 (30.9)	79.4	0.11	60 (46.5)	39.5	4.37				
応募して「博多織」への関心が高まったか (n=645)	はい	404 (62.6)	208 (80.9)	161.0	7.82	147 (56.8)	162.2	-2.53	49 (38.0)	80.8	-6.47	111.418	.000**		
	どちらともいえない	201 (31.2)	44 (17.1)	80.1	-6.27	104 (40.2)	80.7	4.04	53 (41.1)	40.2	2.72				
	いいえ	40 (6.2)	5 (1.9)	15.9	-3.65	8 (3.1)	16.1	-2.68	27 (20.9)	8.0	7.75				
応募して帯やきものへの関心が高まったか (n=646)	はい	382 (59.1)	210 (81.4)	152.6	9.39	123 (47.5)	153.2	-4.92	49 (38.0)	76.3	-5.46	145.135	.000**		
	どちらともいえない	215 (33.3)	44 (17.1)	85.9	-7.14	124 (47.9)	86.2	6.44	47 (36.4)	42.9	0.85				
	いいえ	49 (7.6)	4 (1.6)	19.6	-4.72	12 (4.6)	19.6	-2.32	33 (25.6)	9.8	8.63				
将来帯やきものを学べる学校に進みたいか (n=646)	はい	30 (4.6)	23 (8.9)	12.0	4.21	7 (2.7)	12.0	-1.92	0 (0.0)	6.0	-2.84	65.411	.000**		
	どちらともいえない	222 (34.4)	109 (42.2)	88.7	3.44	98 (37.8)	89.0	1.52	15 (11.6)	44.3	-6.08				
	いいえ	394 (61.0)	126 (48.8)	157.4	-5.16	154 (59.5)	158.0	-0.65	114 (88.4)	78.7	7.13				
将来帯やきものに携わる職業に就きたいか (n=646)	はい	35 (5.4)	26 (10.1)	14.0	4.27	8 (3.1)	14.0	-2.14	1 (0.8)	7.0	-2.60	74.519	.000**		
	どちらともいえない	235 (36.4)	118 (45.7)	93.9	4.03	102 (39.4)	94.2	1.30	15 (11.6)	46.9	-6.53				
	いいえ	376 (58.2)	114 (44.2)	150.2	-5.89	149 (57.5)	150.7	-0.28	113 (87.6)	75.1	7.57				
学年別 (n=646)	1年生	279 (43.2)	94 (36.4)	111.4	-2.83	108 (41.7)	111.9	-0.63	77 (59.7)	55.7	4.23	28.390	.000**		
	2年生	233 (36.1)	91 (35.3)	93.1	-0.34	102 (39.4)	93.4	1.44	40 (31.0)	46.5	-1.34				
	3年生	134 (20.7)	73 (28.3)	53.5	3.86	49 (18.9)	53.7	-0.94	12 (9.3)	26.8	-3.58				

高校生応募者に多いことが示された。

第六に、「将来帯やきものに携わる職業に就きたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、5%水準で有意差が認められた ($\chi^2(4) = 6.504, p < .05$)。このことから、これまで博多織という言葉聞いたことが「あった」という回答が、「将来帯やきものに携わる職業に就きたい」という高校生応募者に多いことが示された。

なお、「きものの着用経験」の回答とのクロス集計でも5%水準で有意差が認められた(3.1.での分析の第一)。

3.3. 帯やきものへの関心度と関連性を持つ項目の探索

「以前から、帯やきものに興味があった」という質問では、「はい」「どちらともいえない」「いいえ」の3選択肢から回答を求めた。この回答と、他の質問項目での回答とで区分したクロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った結果、有意差が見られたものが表4である。

このうち第一に、「今回『博多織』について調べたか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 19.358, p < .01$)。このことから、以前から帯やきものに興味が「あった」という回答が、「今回『博多織』について調べた」という高校生応募者に多いことが示された。

第二に、「今回帯やきものについて調べたか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 47.614, p < .01$)。このことから、以前から帯やきものに興味が「あった」という回答が、「今回帯やきものに

ついて調べた」という高校生応募者に多いことが示された。

第三に、「応募して『博多織』への関心が高まったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 111.418, p < .01$)。このことから、以前から帯やきものに興味が「あった」という回答が、「応募して『博多織』への関心が高まった」という高校生応募者に多いことが示された。

第四に、「応募して帯やきものへの関心が高まったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 145.135, p < .01$)。このことから、以前から帯やきものに興味が「あった」という回答が、「応募して帯やきものへの関心が高まった」という高校生応募者に多いことが示された。

第五に、「将来帯やきものを学べる学校に進みたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 65.411, p < .01$)。このことから、以前から帯やきものに興味が「あった」という回答が、「将来帯やきものを学べる学校に進みたい、又はどちらともいえない」という高校生応募者に多いことが示された。

第六に、「将来帯やきものに携わる職業に就きたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 74.519, p < .01$)。このことから、以前から帯やきものに興味が「あった」という回答が、「将来帯やきものに携わる職業に就きたい、又はどちらともいえない」という高校生応募者に多いことが示された。

第七に、学年別とのクロス集計では、検定の結果、

表 5. 博多織に関する調査の有無と他の質問項目とのクロス集計表

項目	カテゴリー	今回「博多織」について調べたか									χ^2 値	p値			
		全体			はい			どちらともいえない					いいえ		
		観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数			調整済残差		
今回帯やきものについて調べたか (n=646)	はい	274 (42.4)	247 (55.8)	187.9	10.14	17 (17.3)	41.6	-5.45	10 (9.5)	44.5	-7.45	235.944	.000**		
	どちらともいえない	174 (26.9)	99 (22.3)	119.3	-3.88	65 (66.3)	26.4	9.54	10 (9.5)	28.3	-4.39				
	いいえ	198 (30.7)	97 (21.9)	135.8	-7.13	16 (16.3)	30.0	-3.34	85 (81.0)	32.2	12.22				
応募して「博多織」への関心が高まったか (n=645)	はい	404 (62.6)	322 (72.7)	277.5	7.81	48 (49.5)	60.8	-2.90	34 (32.4)	65.8	-7.00	112.409	.000**		
	どちらともいえない	201 (31.2)	111 (25.1)	138.1	-4.96	45 (46.4)	30.2	3.51	45 (42.9)	32.7	2.83				
	いいえ	40 (6.2)	10 (2.3)	27.5	-6.15	4 (4.1)	6.0	-0.92	26 (24.8)	6.5	8.62				
応募して帯やきものへの関心が高まったか (n=646)	はい	382 (59.1)	302 (68.2)	262.0	6.90	44 (44.9)	58.0	-3.11	36 (34.3)	62.1	-5.66	98.532	.000**		
	どちらともいえない	215 (33.3)	127 (28.7)	147.4	-3.68	48 (49.0)	32.6	3.58	40 (38.1)	34.9	1.14				
	いいえ	49 (7.6)	14 (3.2)	33.6	-6.28	6 (6.1)	7.4	-0.59	29 (27.6)	8.0	8.47				
将来帯やきものを学べる学校に進みたいか (n=646)	はい	30 (4.6)	25 (5.6)	20.6	1.78	3 (3.1)	4.6	-0.81	2 (1.9)	4.9	-1.46	13.152	.011*		
	どちらともいえない	222 (34.4)	150 (33.9)	152.2	-0.40	45 (45.9)	33.7	2.61	27 (25.7)	36.1	-2.04				
	いいえ	394 (61.0)	268 (60.5)	270.2	-0.38	50 (51.0)	59.8	-2.20	76 (72.4)	64.0	2.61				
将来帯やきものに携わる職業に就きたいか (n=646)	はい	35 (5.4)	30 (6.8)	24.0	2.25	4 (4.1)	5.3	-0.63	1 (1.0)	5.7	-2.21	23.283	.000**		
	どちらともいえない	235 (36.4)	157 (35.4)	161.2	-0.73	51 (52.0)	35.7	3.50	27 (25.7)	38.2	-2.48				
	いいえ	376 (58.2)	256 (57.8)	257.8	-0.32	43 (43.9)	57.0	-3.12	77 (73.3)	61.1	3.43				
学年別 (n=646)	1年生	279 (43.2)	208 (47.0)	191.3	2.85	37 (37.8)	42.3	-1.18	34 (32.4)	45.3	-2.44	11.129	.025*		
	2年生	233 (36.1)	155 (35.0)	159.8	-0.84	34 (34.7)	35.3	-0.31	44 (41.9)	37.9	1.36				
	3年生	134 (20.7)	80 (18.1)	91.9	-2.49	27 (27.6)	20.3	1.80	27 (25.7)	21.8	1.37				

1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 28.390, p < .01$)。このことから、以前から帯やきものに興味が「あった」という回答が、高校三年生の応募者に多いことが示された。

なお、「きものの着用経験」の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められ(3.1.での分析の第二)、「博多織」という言葉の認知度の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.2.での分析の第一)。

3.4. 博多織に関する調査の有無と関連性を持つ項目の探索

「今回、『博多織』について調べた」という質問では、「はい」「どちらともいえない」「いいえ」の3選択肢から回答を求めた。この回答と、他の質問項目での回答とで区分したクロス集計表を作成し、カイニ乗検定を行った結果、有意差が見られたものが表5である。

このうち第一に、「今回帯やきものについて調べたか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 235.944, p < .01$)。このことから、「今回、『博多織』

について調べた」という回答が、「今回帯やきものについて調べた」という高校生応募者に多いことが示された。

第二に、「応募して『博多織』への関心が高まったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 112.409, p < .01$)。このことから、「今回、『博多織』について調べた」という回答が、「応募して『博多織』への関心が高まった」という高校生応募者に多いことが示された。

第三に、「応募して帯やきものへの関心が高まったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 98.532, p < .01$)。このことから、「今回、『博多織』について調べた」という回答が、「応募して帯やきものへの関心が高まった」という高校生応募者に多いことが示された。

第四に、「将来帯やきものを学べる学校に進みたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、5%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 13.152, p < .05$)。このことから、「今回、『博多織』

表 6. 帯やきものに関する調査の有無と他の質問項目とのクロス集計表

項目	カテゴリー	今回帯やきものについて調べたか											χ^2 値	p値
		はい				どちらともいえない			いいえ					
		観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数	調整済残差			
応募して『博多織』への関心が高まったか (n=645)	はい	404 (62.6)	221 (80.7)	171.6	8.13	94 (54.3)	108.4	-2.64	89 (44.9)	124.0	-6.18	100.914	.000**	
	どちらともいえない	201 (31.2)	48 (17.5)	85.4	-6.43	76 (43.9)	53.9	4.24	77 (38.9)	61.7	2.82			
	いいえ	40 (6.2)	5 (1.8)	17.0	-3.96	3 (1.7)	10.7	-2.85	32 (16.2)	12.3	6.98			
応募して帯やきものへの関心が高まったか (n=646)	はい	382 (59.1)	218 (79.6)	162.0	9.06	87 (50.0)	102.9	-2.87	77 (38.9)	117.1	-6.96	121.062	.000**	
	どちらともいえない	215 (33.3)	49 (17.9)	91.2	-7.13	83 (47.7)	57.9	4.72	83 (41.9)	65.9	3.10			
	いいえ	49 (7.6)	7 (2.6)	20.8	-4.14	4 (2.3)	13.2	-3.08	38 (19.2)	15.0	7.41			
将来帯やきものを学べる学校に進みたいか (n=646)	はい	30 (4.6)	23 (8.4)	12.7	3.89	4 (2.3)	8.1	-1.72	3 (1.5)	9.2	-2.51	41.019	.000**	
	どちらともいえない	222 (34.4)	102 (37.2)	94.2	1.31	77 (44.3)	59.8	3.21	43 (21.7)	68.0	-4.50			
	いいえ	394 (61.0)	149 (54.4)	167.1	-2.96	93 (53.4)	106.1	-2.39	152 (76.8)	120.8	5.47			
将来帯やきものに携わる職業に就きたいか (n=646)	はい	35 (5.4)	28 (10.2)	14.8	4.63	5 (2.9)	9.4	-1.73	2 (1.0)	10.7	-3.29	46.027	.000**	
	どちらともいえない	235 (36.4)	99 (36.1)	99.7	-0.11	85 (48.9)	63.3	4.00	51 (25.8)	72.0	-3.73			
	いいえ	376 (58.2)	147 (53.6)	159.5	-2.01	84 (48.3)	101.3	-3.11	145 (73.2)	115.2	5.15			
学年別 (n=646)	1年生	279 (43.2)	141 (51.5)	118.3	3.64	70 (40.2)	75.1	-0.92	68 (34.3)	85.5	-3.02	17.258	.002**	
	2年生	233 (36.1)	77 (28.1)	98.8	-3.62	69 (39.7)	62.8	1.15	87 (43.9)	71.4	2.77			
	3年生	134 (20.7)	56 (20.4)	56.8	-0.16	35 (20.1)	36.1	-0.24	43 (21.7)	41.1	0.41			

について調べていない」という回答が、「将来帯やきものを学べる学校に進みたいか」という高校生応募者に多いことが示された。

第五に、「将来帯やきものに携わる職業に就きたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 28.283, p < .01$)。このことから、「今回、『博多織』について調べた」という回答が、「将来帯やきものに携わる職業に就きたい」という高校生応募者に多いことが示された。

第六に、学年別とのクロス集計では、検定の結果、5%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 11.129, p < .05$)。このことから、「今回、『博多織』について調べた」という回答が、高校一年生の応募者に多いことが示された。

なお、「博多織」という言葉の認知度の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められ(3.2.での分析の第二)、帯やきものへの関心度の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.3.での分析の第一)。

3.5. 帯やきものに関する調査の有無と関連性を持つ項目の探索

「今回、帯やきものについて調べた」という質問

では、「はい」「どちらともいえない」「いいえ」の3選択肢から回答を求めた。この回答と、他の質問項目での回答とで区分したクロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った結果、有意差が見られたものが表6である。

このうち第一に、「応募して『博多織』への関心が高まったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 100.914, p < .01$)。このことから、「今回、帯やきものについて調べた」という回答が、「応募して『博多織』への関心が高まった」という高校生応募者に多いことが示された。

第二に、「応募して帯やきものへの関心が高まったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 121.062, p < .01$)。このことから、「今回、帯やきものについて調べた」という回答が、「応募して帯やきものへの関心が高まった」という高校生応募者に多いことが示された。

第三に、「将来帯やきものを学べる学校に進みたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 41.019, p < .01$)。このことから、「今回、帯やきも

表 7. 応募を経ての博多織への関心度の高まりと他の質問項目とのクロス集計表

項目	カテゴリー	応募して「博多織」への関心が高まったか									χ^2 値	p値	
		全体			はい			どちらともいえない					
		観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数			調整済残差
応募して帯やきものへの関心が高まったか (n=645)	はい	381 (59.1)	344 (85.1)	238.6	17.44	31 (15.4)	118.7	-15.17	6 (15.0)	23.6	-5.85	533.667	.000**
	どちらともいえない	215 (33.3)	56 (13.9)	134.7	-13.58	154 (76.6)	67.0	15.69	5 (12.5)	13.3	-2.89		
	いいえ	49 (7.6)	4 (1.0)	30.7	-8.20	16 (8.0)	13.2	0.23	29 (72.5)	3.0	16.00		
将来帯やきものを学べる学校に進みたいか (n=645)	はい	30 (4.7)	30 (7.4)	18.8	4.33	0 (0.0)	9.3	-3.77	0 (0.0)	1.9	-1.44	42.122	.000**
	どちらともいえない	221 (34.3)	157 (38.9)	138.4	3.19	61 (30.3)	68.9	-1.41	3 (7.5)	13.7	-3.68		
	いいえ	394 (61.1)	217 (53.7)	246.8	-4.97	140 (69.7)	122.8	3.00	37 (92.5)	24.4	4.21		
将来帯やきものに携わる職業に就きたいか (n=645)	はい	35 (5.4)	32 (7.9)	21.9	3.62	2 (1.0)	10.9	-3.34	1 (2.5)	2.2	-0.84	44.052	.000**
	どちらともいえない	234 (36.3)	171 (42.3)	146.6	4.14	60 (29.9)	72.9	-2.28	3 (7.5)	14.5	-3.91		
	いいえ	376 (58.3)	201 (49.8)	235.5	-5.70	139 (69.2)	117.2	3.76	36 (90.0)	23.3	4.20		

のについて調べた」という回答が、「将来帯やきものを学べる学校に進みたい」という高校生応募者に多いことが示された。

第四に、「将来帯やきものに携わる職業に就きたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 46.027, p < .01$)。このことから、「今回、帯やきものについて調べた」という回答が、「将来帯やきものに携わる職業に就きたい」という高校生応募者に多いことが示された。

第五に、学年別とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 17.258, p < .01$)。このことから、「今回、帯やきものについて調べた」という回答が、高校一年生の応募者に多いことが示された。

なお、「博多織」という言葉の認知度の回答とのクロス集計でも5%水準で有意差が認められ(3.2.での分析の第三)、帯やきものへの関心度の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.3.での分析の第二)。さらに博多織に関する調査有無の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.4.での分析の第一)。

3.6. 応募を経ての博多織への関心度の高まりと関連性を持つ項目の探索

「応募して『博多織』への関心が高まった」という質問では、「はい」「どちらともいえない」「いいえ」の3選択肢から回答を求めた。この回答と、他の質

問項目での回答とで区分したクロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った結果、有意差が見られたものが表7である。

このうち第一に、「応募して帯やきものへの関心が高まったか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 533.667, p < .01$)。このことから、「応募して『博多織』への関心が高まった」という回答が、「応募して帯やきものへの関心が高まった」という高校生応募者に多いことが示された。

第二に、「将来帯やきものを学べる学校に進みたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 42.122, p < .01$)。このことから、「応募して『博多織』への関心が高まった」という回答が、「将来帯やきものを学べる学校に進みたい、又はどちらともいえない」という高校生応募者に多いことが示された。

第三に、「将来帯やきものに携わる職業に就きたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 44.052, p < .01$)。このことから、「応募して『博多織』への関心が高まった」という回答が、「将来帯やきものに携わる職業に就きたい、又はどちらともいえない」という高校生応募者に多いことが示された。

なお、「きものの着用経験」の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められ(3.1.での分析の第三)、「博多織」という言葉の認知度の回答との

表 8. 応募を経ての帯やきものへの関心度の高まりと他の質問項目とのクロス集計表

項目	カテゴリー	応募して帯やきものへの関心が高まったか											χ ² 値	p値
		全体		はい			どちらともいえない			いいえ				
		観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数	調整済残差			
将来帯やきものを学べる学校に進みたいか (n=646)	はい	30 (4.6)	29 (7.6)	17.7	4.28	1 (0.5)	10.0	-3.56	0 (0.0)	2.3	-1.61	45.535	.000**	
	どちらともいえない	222 (34.4)	146 (38.2)	131.3	2.48	74 (34.4)	73.9	0.02	2 (4.1)	16.8	-4.64			
	いいえ	394 (61.0)	207 (54.2)	233.0	-4.26	140 (65.1)	131.1	1.52	47 (95.9)	29.9	5.21			
将来帯やきものに携わる職業に就きたいか (n=646)	はい	35 (5.4)	33 (8.6)	20.7	4.35	1 (0.5)	11.6	-3.93	1 (2.0)	2.7	-1.09	47.277	.000**	
	どちらともいえない	235 (36.4)	156 (40.8)	139.0	2.83	76 (35.3)	78.2	-0.38	3 (6.1)	17.8	-4.58			
	いいえ	376 (58.2)	193 (50.5)	222.3	-4.76	138 (64.2)	125.1	2.18	45 (91.8)	28.5	4.97			
学年別 (n=646)	1年生	279 (43.2)	154 (40.3)	165.0	-1.77	106 (49.3)	92.9	2.22	19 (38.8)	21.2	-0.65	12.266	.015*	
	2年生	233 (36.1)	133 (34.8)	137.8	-0.80	77 (35.8)	77.5	-0.10	23 (46.9)	17.7	1.65			
	3年生	134 (20.7)	95 (24.9)	79.2	3.11	32 (14.9)	44.6	-2.59	7 (14.3)	10.2	-1.16			

クロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.2.での分析の第四)。さらに、帯やきものへの関心度の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.3.での分析の第三)、博多織に関する調査有無の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.4.での分析の第二)、そして帯やきものに関する調査有無の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.5.での分析の第一)。

3.7. 応募を経ての帯やきものへの関心度の高まりと関連性を持つ項目の探索

「応募して帯やきものへの関心が高まった」という質問では、「はい」「どちらともいえない」「いいえ」の3選択肢から回答を求めた。この回答と、他の質問項目での回答とで区分したクロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った結果、有意差が見られたものが表8である。

このうち第一に、「将来帯やきものを学べる学校に進みたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた(χ²(5) = 45.535, p < .01)。このことから、「応募して帯やきものへの関心が高まった」という回答が、「将来帯やきものを学べる学校に進みたい、又はどちらともいえない」という高校生応募者に多いことが示された。

第二に、「将来帯やきものに携わる職業に就きたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた(χ²(5) =

47.277, p < .01)。このことから、「応募して帯やきものへの関心が高まった」という回答が、「将来帯やきものに携わる職業に就きたい、又はどちらともいえない」という高校生応募者に多いことが示された。

第三に、学年別とのクロス集計では、検定の結果、5%水準で有意差が認められた(χ²(5) = 12.266, p < .05)。このことから、「応募して帯やきものへの関心が高まった」という回答が、高校三年生の応募者に多いことが示された。

なお、「きものの着用経験」の回答とのクロス集計でも10%水準で有意傾向が認められ(3.1.での分析の第四)、「博多織」という言葉の認知度の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.2.での分析の第五)。さらに、帯やきものへの関心度の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.3.での分析の第四)、博多織に関する調査有無の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.4.での分析の第三)、帯やきものに関する調査有無の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.5.での分析の第二)、そして、応募を経ての博多織への関心度の高まりの回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.6.での分析の第一)。

3.8. 将来帯やきものを学べる学校への進学意思と関連性を持つ項目の探索

「将来、帯やきものを学べる学校に進みたい」とい

表 9. 将来帯やきものを学べる学校への進学意思と他の質問項目とのクロス集計表

項目	カテゴリー	将来帯やきものを学べる学校に進みたいか									χ ² 値	p値			
		全体			はい			どちらともいえない					いいえ		
		観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数 調整済 残差	観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数 調整済 残差	観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数 調整済 残差			観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数 調整済 残差
将来帯やきものに携わる職業に就きたいか (n=646)	はい	35 (5.4)	26 (86.7)	1.6	20.13	5 (2.3)	12.0	-2.57	4 (1.0)	21.3	-6.18	794.110	.000**		
	どちらともいえない	235 (36.4)	3 (10.0)	10.9	-3.08	194 (87.4)	80.8	19.50	38 (9.6)	143.3	-17.66				
	いいえ	376 (58.2)	1 (3.3)	17.5	-6.24	23 (10.4)	129.2	-17.84	352 (89.3)	229.3	20.06				
学年別 (n=646)	1年生	279 (43.2)	11 (40.3)	13.0	-0.74	94 (42.3)	95.9	-0.31	174 (44.2)	170.2	0.62	10.095	.039*		
	2年生	233 (36.1)	17 (34.8)	10.8	-1.49	90 (40.5)	80.1	1.71	136 (34.5)	142.1	-1.03				
	3年生	134 (20.7)	12 (24.9)	6.2	2.66	38 (17.1)	46.0	-1.64	84 (21.3)	81.7	0.45				

う質問では、「はい」「どちらともいえない」「いいえ」の3選択肢から回答を求めた。この回答と、他の質問項目の回答とで区分したクロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った結果、有意差が見られたものが表9である。

このうち第一に、「将来帯やきものに携わる職業に就きたいか」という質問の回答とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 794.110, p < .01$)。このことから、「将来、帯やきものを学べる学校に進みたい」という回答が、「将来帯やきものに携わる職業に就きたい」という高校生応募者に多いことが示された。

第二に、学年別とのクロス集計では、検定の結果、5%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 10.095, p < .05$)。このことから、「将来、帯やきものを学べる学校に進みたい」という回答が、高校三年生の応募者に多いことが示された。

なお、帯やきものへの関心度の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.3.での分析の第五)、博多織に関する調査有無の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.4.での分析の第四)。さらに、帯やきものに関する調査有無の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.5.での分析の第三)、応募を経ての博多織への関心度の高まりの回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.6.での分析の第二)、そして、応募を経ての帯やきものへの関心度の高まりの回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.7.での分析の第一)。

3.9. 将来帯やきものに携わる就職の意思と関連性を持つ項目の探索

「将来、帯やきものに携わる職業に就きたい」という質問では、「はい」「どちらともいえない」「いいえ」の3選択肢から回答を求めた。この回答と、他の質問項目の回答とで区分したクロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った結果、有意差が見られたものが表10である。

学年別とのクロス集計では、検定の結果、1%水準で有意差が認められた ($\chi^2(5) = 15.554, p < .01$)。このことから、「将来、帯やきものに携わる職業に就きたい」という回答が、三年生の応募者に多いことが示された。

なお、「博多織」という言葉の認知度の回答とのクロス集計でも5%水準で有意差が(3.2.での分析の第六)、帯やきものへの関心度の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.3.での分析の第六)認められた。さらに、博多織に関する調査有無の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.4.での分析の第五)、帯やきものに関する調査有無の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.5.での分析の第四)、応募を経ての博多織への関心度の高まりの回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.6.での分析の第三)、応募を経ての帯やきものへの関心度の高まりの回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が(3.7.での分析の第二)、そして、将来帯やきものを学べる学校への進学意思の回答とのクロス集計でも1%水準で有意差が認められた(3.8.での分析の第一)。

表 10. 将来帯やきものに携わる就職の意思と他の質問項目とのクロス集計表

項目	カテゴリー	将来帯やきものに携わる職業に就きたいか											χ ² 値	p値
		全体		はい			どちらともいえない			いいえ				
		観測度数(%)	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数	調整済残差	観測度数(%)	期待度数	調整済残差			
学年別 (n=646)	1年生	279 (43.2)	12 (34.3)	15.1	-1.09	96 (40.9)	101.5	-0.91	171 (45.5)	162.4	1.39	15.554	.004**	
	2年生	233 (36.1)	9 (25.7)	12.6	-1.31	101 (43.0)	84.8	2.77	123 (32.7)	135.6	-2.10			
	3年生	134 (20.7)	14 (40.0)	7.3	2.89	38 (16.2)	48.7	-2.17	82 (21.8)	78.0	0.79			

4. 考察

以上の分析結果より、きものの着用経験や博多織という言葉の認知度のほか、帯やきものの関心度、博多織や帯・きものについての調査の有無、応募を経ての博多織や帯・きものへの関心度の高まり、さらには将来帯・きものを学べる学校への進学意思やそれらに携わる職業への就職意思のそれぞれの項目間の関連性等についての考察を以下に示す。

4.1. 高校生の「きものの着用経験」の重要性

まず、3.1.での統計解析結果において、きものの着用経験がある高校生応募者に、応募を経て博多織や帯・きものへの関心が高まったと答える傾向が見られた。

高校生にきものを着てもらふ機会を増やすことによって、デザインコンテスト応募を機に博多織や帯・きものへの関心を高めてもらうことに繋がる可能性がある。

4.2. 「博多織」や帯・きものへの関心が高まった高校生が和装に携わる進路を志すという重要性

次に、3.6.での統計解析結果において、応募をして「博多織」への関心が高まったと回答した高校生応募者に、将来帯やきものを学べる学校に進みたいと答える傾向が見られた。また、3.7.での統計解析結果においては、応募をして帯やきものへの関心が高まったと回答した高校生応募者に、将来帯やきものに携わる職業に就きたいと答える傾向も見られた。

高校生がデザインコンテスト応募を機に、博多織や帯・きものに関する学びや職業を、将来的な進路選択の一つとして考えることに繋がる可能性がある。

5. 結論と今後の課題

本研究の結果、「博多つくりベデザインコンクール」への応募を行った高校生が、応募を機に博多織や帯・きものへの関心を高めている状況等が把握できた。

一方で、高校生応募者がデザインを専攻しているか否かや、性別の違い等、今後注目すべき属性項目が存在する可能性がある。引き続き、調査の質問項目や尺度について再検討を行うことが課題として挙げられる。

謝辞

アンケートの回答にご協力頂いた応募者の皆様には大変お世話になりました。また、調査の実施や集計では、博多織 DC 前事務局次長の山崎龍太郎氏、同アシスタントディレクターの堺美樹氏にご尽力を頂きました。そして本稿作成の際は、匿名の査読者から貴重なコメントを頂きました。ここに記して感謝の意を表します。

(注)

1) 引用・参考文献の [1] を参照。

(引用・参考文献)

- [1] 大淵和憲 (2021) 「日本における学生向け染織・和装デザインコンテストの現況と課題」『日本家政学会第 73 回大会研究発表要旨集』、p.71。
- [2] 小川裕子 (2012) 「日本におけるファッションデザインコンテストの現況と課題—人材育成の視点より—」『文化学園大学紀要 服装学・造形学研究』43 集、pp.1-9。
- [3] 澤田慎治 (2018) 「商品のデザインコンペ」『名城論叢』18 巻 4 号、pp.75-87。